



岡山市水道事業審議会

第80回資料

令和7年1月27日(月) 14時00分

岡山市水道局本局庁舎 3階 災害対策室

岡山市水道局

目 次

「岡山市水道に関する意識調査」の実施について……………	1
上下水道施設の耐震化状況の緊急点検結果について……………	2
水道水における PFAS（有機フッ素化合物）の状況について……………	4
料金改定後の料金収入の状況について……………	6

●岡山市水道に関する意識調査の実施について

1 調査目的

次期総合基本計画（経営計画）の策定にあたって、市民の皆さまの水道に対する様々な意識とその動向を把握するとともに、積極的に「市民の声」を聴き、今後の水道事業を効果的に推進するうえでの基礎資料とするため

2 調査概要

- (1) 対象 3,000人
- ・ 市内在住の18歳以上の男女
 - ・ 住民基本台帳から無作為抽出

- (2) 方法 郵送配布・回収、Web回答（無記名）

3 質問内容

- (1) 属性 年齢層、給水方式等

- (2) 項目 水道水について、水道局の事業・サービスについて
広報活動について

4 報告書 A4版200部（概要版あり）、水道局ホームページ掲載

5 調査票 別紙 調査票（案）のとおり

6 その他

- (1) スケジュール

令和7年 1月	実施（案）…水道事業審議会、都市・環境委員会
3月	業者決定、調査票作成
5月	調査票送付（調査期間15日程度）、調査
5～9月	集計、分析、報告書整理
10～11月	結果報告 …水道事業審議会、都市・環境委員会

- (2) 過去3回の意識調査

年度 (完成月)	令和7年度 (7年9月予定)	令和2年度 (3年2月)	平成26年度 (26年10月)	平成22年度 (22年10月)
質問数（枝番号）	15問(24問)	15問(24問)	16問(25問)	16問(23問)
標本数	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人
有効回収数		1,647人	1,830人	1,966人
有効回収率		54.9%	61.0%	65.5%

上下水道施設の耐震化状況の緊急点検結果

1.概要

令和6年1月の能登半島地震での教訓を踏まえ、国土交通省が上下水道施設の耐震化状況について緊急点検を実施した。その点検結果における岡山市の状況報告を行うもの。

2.点検項目 (別添 図1)

- ①急所施設
…被災するとシステム全体が機能を失う最重要施設
- ②重要施設 (※) に接続する管路やポンプ場
…特に、上下水道が一体的に耐震化されているか整理されている
- ※ 重要施設
地域防災計画で定められた避難所や医療機関等
(岡山市は83施設を対象)

3.点検結果 (別添 表1)

急所施設	上水	配水池は66%と全国平均並みであるが、他は全国平均より低く取水施設や浄水施設は10%に満たない。
接続する管路等	下水	管路は98%とほぼ完成形だが下水処理場は38%と全国平均を下回る。なお、本市には急所施設のポンプ場は存在しない。
	上水	管路は全国平均を大きく上回る70%で、26施設のルートで耐震化が完了している。
	下水	管路は全国平均を大きく上回る77%であるが、ポンプ場が全国平均よりも低い10%である。耐震化が完成している施設はない。
	上下一体水	≪耐震化完成数≫ 水道：26施設/83施設 下水：0施設/83施設 ⇒ 上下一体では 0施設/83施設

3.点検結果

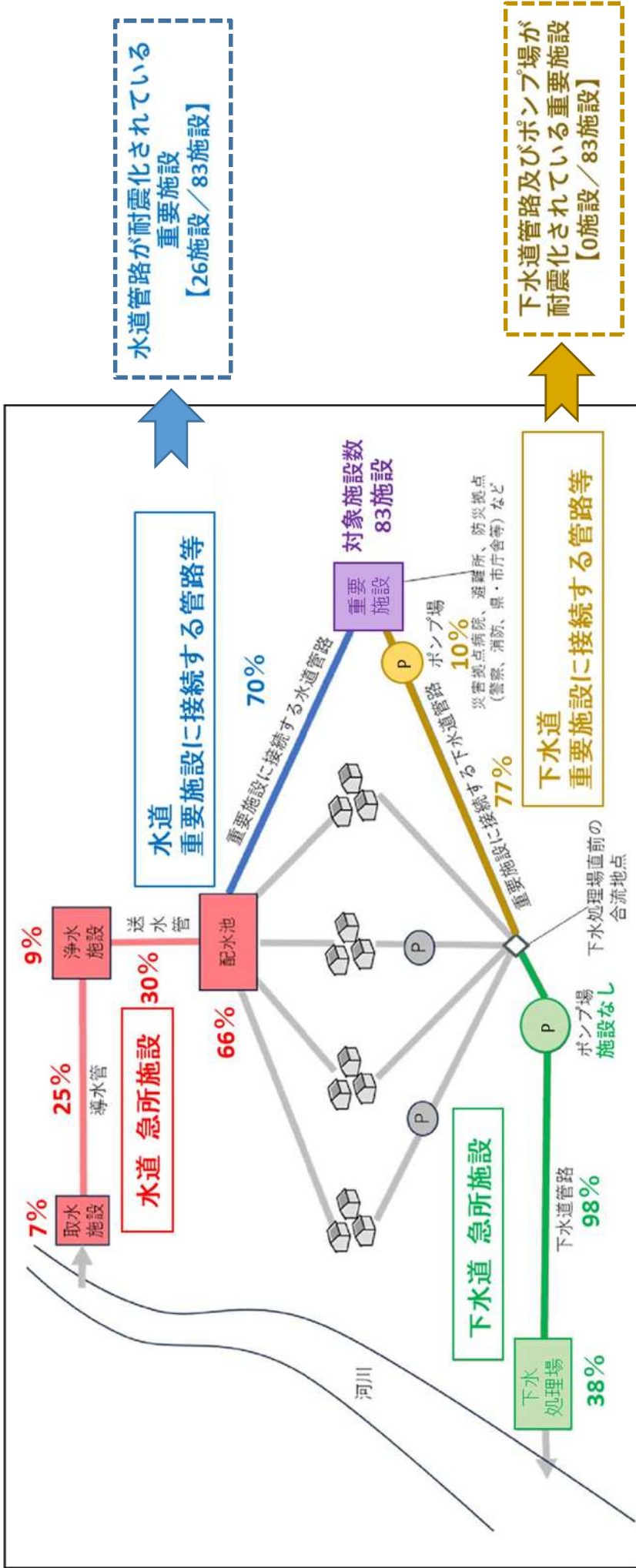
全体 上下水道耐震化計画をR7年1月末までに策定し、災害時にも上下水道が一体的に機能するよう両局が連携して取り組む

水道 引き続き重要施設ルートの耐震化をしつつ、浄水施設の耐震化を進める。取水施設などは河川改修計画や現有施設の状況を確認するなどし、次の投資への準備を図る

下水道 ポンプ場等災害時の課題を再認識し、引き続き改築更新等の事業とも同調しながら効果的・計画的に耐震化を進める

(図1) 点検施設と耐震化状況

別添



(表1) 点検結果一覧

	急所施設の耐震化状況 (%)										重要施設に接続する管路等の耐震化状況 (%)		
	上水					下水					上水	下水	
	取水施設	導水管	浄水施設	送水管	配水池	処理場	管路	ポンプ場	管路	ポンプ場	管路	管路	ポンプ場
岡山市	7	25	9	30	66	38	98	-	70	10	77	10	
全国平均	46	34	43	47	67	48	72	46	39	51	51	44	
県平均	16	13	32	29	65	56	58	85	36	51	51	69	
県内順位	8位/28	9位/27	15位/29	12位/34	7位/31	10位/22	10位/22	-	1位/18	9位/18	9位/18	8位/12	

水道水における有機フッ素化合物（PFAS）について

1 PFASとは

有機フッ素化合物の総称であり、PFASを使った製品は水や油をはじき、分解しにくいという性質があるため泡消火剤、界面活性剤等の幅広い用途で使用されています。

(1) 規制

PFASの一種である、PFOS及びPFOAについては、幅広く使用されてきた一方で、自然環境中では分解されにくく、高い蓄積性を有することなどが確認されており、製造・輸入・製品への使用が禁止されています。（PFOS：平成22年～、PFOA：令和3年～）

(2) 水道水質管理

令和2年4月に水質管理目標設定項目（*1）として位置づけられ、合計で暫定目標値50ng/L（*2）以下が設定されました。

*1 水質管理目標設定項目とは、水質基準項目とすることは見送られたが水質を管理する上で留意しておくべきものとして指定されている。

*2 ng/L：ナノグラムパーリットル、1ngは十億分の1g

水道水における有機フッ素化合物（PFAS）について

2 岡山市の水道水での検査状況

令和2年度から検査を開始し、現在は水道原水で年2回、給水栓で年4回実施しています。（令和7年度からは水道原水でも年4回実施予定）

検査開始から現在まで、暫定目標値50ng/Lを超過した地点はありません。

引き続き、水道水を安心してご利用いただけます。

なお、現在宇甘川下流に位置する宇垣浄水場系の監視を強化しています。

（表1）

表1 金川取水場及び虎倉給水栓のPFAS濃度

	金川取水場（原水）	虎倉給水栓（浄水）
R6.4.15	-	16ng/L
R6.4.17	19ng/L	14ng/L
R6.5.20	19ng/L	13ng/L
R6.6.12	16ng/L	11ng/L
R6.7.1	-	15ng/L
R6.7.8	29ng/L	21ng/L
R6.8.13	12ng/L	7ng/L
R6.9.17	13ng/L	10ng/L
R6.10.8	-	8ng/L
R6.10.28	13ng/L	9ng/L
R6.11.13	12ng/L	11ng/L
R6.12.4	11ng/L	7ng/L

水質検査結果については、水道局ホームページで公表しています。



3 御津三谷川での検出

令和5年度の吉備中央町での検出事案を受け、水道原水である旭川への影響を把握するため、令和6年8月から上流域の3支流を調査しました。その結果、御津地区の三谷川において110ng/LのPFOS及びPFOAが検出されたため、市環境保全課に情報提供しました。

現在、環境保全課にて原因究明及び影響範囲について随時、調査が行われています。



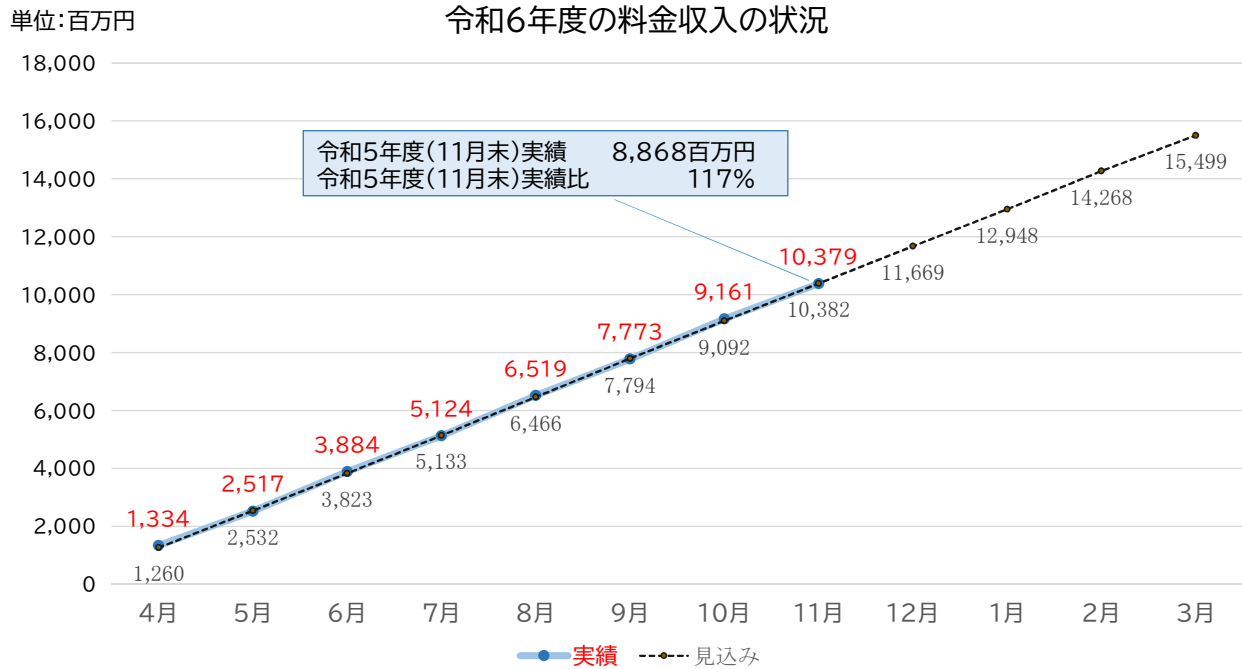
地理院タイルを加工

水道局では水道原水である旭川への影響を9月から毎月調査しており、現在まで旭川に対し三谷川の影響がないことを確認しています。

水道局では、引き続き監視を強化し水道水の安心・安全の確保に努めます。

料金改定後の料金収入の状況について（料金収入の部）

料金収入(令和6年11月末)は、103億7,900万円(税込)で見込みどおり



料金改定後の料金収入の状況について（料金水量の部）

料金水量(令和6年11月末)も、51,523千 m^3 で見込みどおり

